

笑ってごらん

第 648 号 2019. 2. 26 発行

～今日の格言～

孫子

彼を知りて己を知れば、百戦して殆うからず。

彼を知らずして己を知れば、一勝一負す。

彼を知らず己を知らざれば、戦うごとに必ず殆うし。



3年生及び看護学科専門課程2年生の皆さん、卒業おめでとう。

本校での在学期間中、さまざまなことに取り組んできたことと思うが、それらは決して簡単なことばかりではなかったはずだ。

時には自暴自棄や人間不信に陥ったりしたこともあっただろう。

しかし、君たちはどんな時でも「どうやったらこれを乗り越えられるか？」と考え、行動に移してきた。だからこそ今がある。

そこには親兄弟、友人の支えや見守りがあり、苦難を乗り越える経験の一つひとつ積み上げていくことで君たちは確実に成長してきた。

入学当初は不安を感じることもばかりであったが、卒業を目前に控えた今、君たちの姿は自信に満ちあふれた輝きを放っている。鳳凰高等学校の卒業生であるとの誇りを持って学び舎を後にして欲しい。

君たちが向かう社会は多くの分野において技術革新が進み、AIやロボットが台頭してくる。物を買うのもネットショップが主流になり、将来は店舗が無くなる時代が来るかも知れない。

自動車が自動運転により運転手が不要になるのはそう遠くはないだろう。

ただ、AIやロボットはプログラミングされた以上のことはできない。君たちは「人として」何ができるかを考え、「人だからできる」優しさや思いやりを忘れずに尽力して欲しい。

君たちにはこれから新たな試練が待ち受けている。しかし、臆せず立ち向かい、自分の大きな成長の糧として欲しい。

可能性は無限大。チャレンジ精神を忘れず一所懸命努力する中で、これまで気づけなかった自分自身の力を見いだすであろう。

君たちの未来に幸多からんことを祈る。



イダテン (韋駄天)

今年の大河ドラマに取り上げられている「イダテン」とは足の速いことをいう。

ヒンドウー教のスカンダが仏教に入って仏法の守護神となった。また、子供の病魔退散の神。日本の禅宗では厨房や僧坊を守る護法神として祀られる。

昔、インドの悪い鬼が仏舍利（お釈迦様の骨）を盗んで須弥山に逃亡。これを追い、取り戻したのが韋駄天。その須弥山は約1300万kmの高さ。それを一瞬に駆け上がったのだ。

この俗伝から、よく走る神、盗難除けの神として知られる。転じて、足の速い人のたとえにされている。

さらには、韋駄天が釈尊のために方々を駆け巡って食物を集めたとの俗伝に由来して、「御馳走（ごちそう）」という言葉ができた。

